

記念座談会「地域医療に果たす役割と期待」

足跡

岡山県病院協会の特徴の一つは設立時から事務長部会(当初は事務部会)があることで、経営管理の研修が大きな柱だったと聞いています。

岩本 初代会長の故・川崎祐宣先生は事務長部会を設けた理由について、「病院の経営管理は管理者である院長だけでは困難であり、補佐役である事務長方の協力があって初めて立派な運営がなされる」とおっしゃっています。事務長部会は当初から活発にいろいろな企画運営を行ってきた。私は1999年に部会長になり、これからの病院は職員みんなで担っていくかなければならないと、事務長研修会を経営管理研修会に改めて関心のある方は誰でも参加できるようにしました。

土井 岡山県病院協会が全国的に高く評価されているのは、事務長部会と理事

会が車の両輪でやってきたからです。経営はマネジメントが大切だというのが最近の大きな流れで、まさに先見の明があったと思います。協会では多職種の病院職員の研修のほか、先進的な県外病院の見学会があり、素晴らしい学びの場になっています。

岩本 97年に岡山市内の病院で腸管出血性大腸菌O157の集団食中毒が発生して給食が停止した時には、栄養士を中心にした給食研究委員会(当時)が自主的に支援を決めた。日ごろの交流が役立ち、協会と病院が給食業務支援協定を結ぶ契機になりました。また

小出 当協会が誇るべきは、規模や機能の異なる公私立病院が一致団結して活動してきたことで、全国でもまれな存在です。情報を求め、共に前向きに取り組む姿勢が岡山にはあります。

岩本 97年に岡山市内の病院で腸管出血性大腸菌O157の集団食中毒が発生して給食が停止した時には、栄養士を中心にした給食研究委員会(当時)が自主的に支援を決めた。日ごろの交流が役立ち、協会と病院が給食業務支援協定を結ぶ契機になりました。また

一般社団法人
岡山県病院協会
理念
良い病院づくりを通して
そして良い医療を提供することを通じて
地域に貢献する
沿革
●1962年7月
任意団体(107病院)として設立
●1978年6月
社団法人格を取得
●2012年4月
一般社団法人へ移行
会員数 169病院
支部 岡山 玉野・児島 倉敷 井笠 吉備
高梁 新見 真庭 津山 東備
組織
顧問 役員/事務長会/
医療対策・医事業務・介護保険・看護研究・
栄養管理・福祉厚生・施設管理・広報の各
委員会
所在地
〒703-8278
岡山市中区古京町1-1-10
岡山衛生会館5階
TEL.086-272-6400 FAX.086-272-5587
URL http://www.oka-hosp-a.jp/

全国モデルとして評価



ささき・たけし 和歌山県立医科大学卒。2010年8月から2年間、岡山県保健福祉部長。現在、厚労省新型インフルエンザ対策推進室長。

医療連携へさらに協力



にわ・くにやす 岡山大学医学部卒。同大産婦人科教室講師などを経て1983年、丹羽病院開業。日本医師会生殖補助医療検討委員会委員長。今年4月から現職。



もりた・きよし 岡山大学医学部卒。2002年に同大学院教授。05年同大医学部・歯学部附属病院(現岡山大学病院)病院長。11年から現職。

情報共有し役割分担を

岡山大学
学長 森田 潔氏

岡山県医師会
会長 丹羽 国泰氏

(左面へ続く)

ネットワーク築き

岡山県保健福祉部
前部長 佐々木 健氏

岡山県病院協会の学術性の高さや組織力があつたからこそ実現したといえます。

土井 協会挙げて、看護師、薬剤師など約20の医療

従事者団体とも一緒になってやれたのが大きかった。病院に関わるあらゆる人たちが発表できる場として過去最多の延べ7200人が

この20年で病院をめぐる制度や環境が随分変わってきました。一番大きな変化は何でしょうか。

小出 病院が役割を担い合って連携することが医療提供体制の骨格になってきました。人生80年代、高齢に伴う病気の、さまざまな後遺症、あるいはがんなどの病気を抱えながら生活する人々を支える医療ニーズが増えていきます。治す医療と生活を支える医療とを連携してやっていく時代に入りました。

佐々木 特に直近2回の診療報酬改定では、2025年の高齢化のピークに向けて、急性期病院、長期療養病院、リハビリ病院というように各病院が役割分担をしていくことで、経営を安定できるような形になってきています。それぞれの病院は、地域でどのような役割を担えるのかを考え、適切な役割を見つけていくことが重要です。

丹羽 機能分担のような再編が起こればと思うし、起こさなければなりません。高齢化が進み、急性期医療の充実に加えて、介護・福祉が非常に重要になってきました。県内の老人保健施設あるいは診療所との連携が地域医療の充実には必要になっており、私自身是有床診療所を活用してほしいと思っています。

森田 岡山大学病院で育った人たちが県内の多くの病院に散らばっていることも組織率に現れているのではないのでしょうか。同じ土壌ですから、話をして違和感がなく、対抗意識がない。